

みんなと関かわかつて

- (1) 社会まのきまりを守まもって
- (2) 働はたらくことの大切たいせつさを知しって
- (3) 家族かぞくみんなみんなで協きょうり力りよくし合あって
- (4) 協きょうり力りよくし合あって楽たのしい学が校が、学が級きゅうを
- (5) きょう土あを愛あいする心こころをももって
- (6) 伝でんとうと文ぶん化かを大たい切せつに



(1) 社会のきまりを守って

約束やきまりを大切にすること

わたしたちの学校や家庭、地いきには、いろいろな約束やきまりがあります。どうしてそのような約束やきまりはあるのでしょうか。

左の写真は、平成七（一九九五）年に六千人以上もの人がなくなるなど、大きなひ害をもたらした「阪神淡路大震災」のときのひなん所の様子です。

ならんでいるのは、家がこわれたり、家族がなくなったり、けがをしたりしている人がほとんどです。

このような苦しいときも、人々はきまりを作り、それを守って、助け合って生活できるようにしたのです。

平成二十三（二〇一一）年の「東日本大震災」のときにも、苦しい中でも、順序を守ってならぶことやルールを守ること、助け合うことなど、みんなのことを考えた行動が多く見られました。

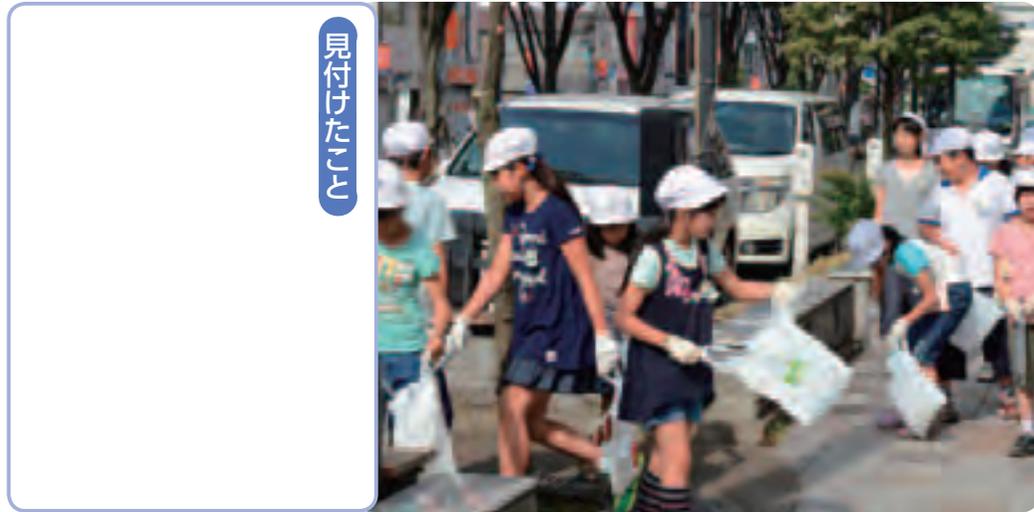
また、各地から救助の人やボランティアの人たちが集まり、ひ害にあった人たちを助け、勇気付けました。

● 約束やきまりはどうしてあるのでしょうか。

● みんなで気持ちよくくらすための約束やきまりにはどのようなものがあると思いますか。



見つけたこと



見つけたこと



見つけたこと



見つけたこと



見つけたこと

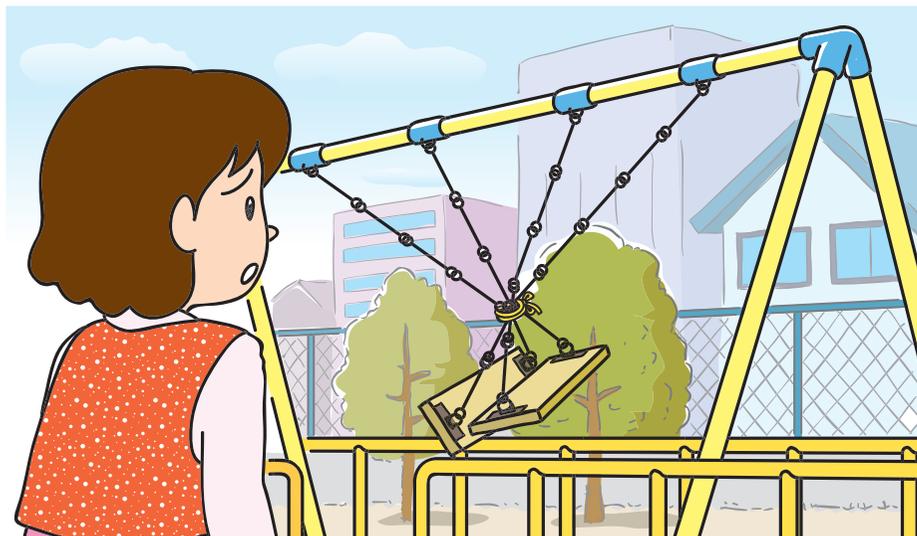


見つけたこと

● 学校や地いきで、気持ちよく、楽しくすごすためのきまりやマナーには、
どのようなものがあるでしょうか。見付けてみましょう。

気持ちよくすごすためのきまりやマナーを見付けよう

ぶらんこ復活



恵さんの学校では、ぶらんこでけがをする人が多く、先月から使用禁止になってしまいました。
ぶらんこ遊びが大好きな恵さんは、遊べなくなってしまったのでとてもこまりました。

「校長先生、またぶらんこで遊びたいです。」
恵さんは、思い切って校長先生にお願いしてみました。

校長先生はぶらんこの周りにさくを作りましたが、まだ、心配です。
校長先生は、こう言いました。

「ぶらんこを復活させるには、けががないように使うためのルールが必要です。
みんなもいっしょに考えてくれませんか。」
そこで、児童会の代表委員にも、どうすれば、けがをしないで使えるかを考えてもらうことにしました。



代表委員は、ぶらんこを復活させるために話し合いました。



「待っているときは、さくの外にいますね。」
「ごみ合う休み時間は、低学年の人が先に使えるようにしようよ。」
「ぶらんこをしている人がおりてから、次の人がさくの中に入るようにしよう。」

今では、みんなきまりを守り、楽しく安全にぶらんこで遊んでいます。

●学校や学級で、みんなが楽しく安全に生活するためには、どのようなきまりが必要でしょうか。

こんな場面で	こんなきまりを
こんな場面で	こんなきまりを
こんな場面で	こんなきまりを

雨のバス停留所で

今日は、お母さんといっしょに、おばさんの家に出かける日です。ところが、朝から雨がふっています。よし子さんは、少しつまらなくなりました。家を出るときには、雨はいっそう強くなり、おまけに風もふいてきました。おみやげが入っている紙ぶくろにも、大つぶの雨がどんどんふりかかります。

バスの停留所では、バスを待つ人たちが、たばこ屋さんのかき下で雨宿りをしています。のかき下に入っても、雨はよし子さんの長ぐつや紙ぶくろにふきつけます。雨宿りをしている人たちは、バスが来る方を時々見えています。

遠くの方に、小さくバスが見えました。

よし子さんは、雨の中へタッタツとかけ出すと、停留所で一番先頭にならびました。バスが来たことを知った人たちは、ぞろぞろと停留所に向かって歩き始めました。

その時です。

後ろの方で、お母さんの声が聞こえたような気がしました。よその人の声も聞こえたように思いました。どしゃぶりの雨なので、よし子さんは別に気にもしませんでした。

バスが止まりました。

よし子さんがかさをすぼめようとした時、かたが強い力で後ろの方にぐいと引かれました。かたをしっかりとつかんだ、ものすごく強い力でした。びっくりしてふり返ると、お母さんの手でした。よし子さんは、はっとしました。それでもお母さんは何も言わないで、よし子さんをお母さんがならんでいた





んに知らぬふりをして、お母さんはだまっただま、まどの外をじっと見つめています。

いつもなら、やさしく話しかけてくれるお母さんです。でも、今日のお母さんは、いつもとは全然ちがうのです。そんなお母さんの横顔を見ていたよし子さんは、自分がしたことを考え始めました。バスのまどには、大つぶの雨がしきりにふきつけていました。



所まで連れていきました。いつものお母さんの顔とちがって、とてもこわい顔でした。

バスに乗る人たちの列が、動き始めました。よし子さんは首を横に出して、ならんでいる人の数を数えました。よし子さんは、前から六番目でした。一人一人がかさをすぼめてバスに乗るので、いつもとちがって時間がかかります。

(前の人たちは、どうして早く乗ってくれないのだろう……。)

よし子さんは、こんなことを考えながら、少しじりじりした気持ちで前へ進みました。

バスに乗りました。でも、もう席は空いていませんでした。

(ほら、ごらんなさい。)

と言うつもりで、よし子さんは横に立っているお母さんの顔を見上げました。そんなよし子さ

みんなが守らなくてはならないきまりがある

みんなが集まってくらす上で、一人一人が守らなくてはならないきまりがあります。

どうしてきまりを守らなくてはならないのか、相手の立場に立って考えてみましょう。

みんなが守らなくてはならないきまり

- 一人をきず付けない。
- 一人の物をぬすまない。
- うそを言わない。
- 弱い者いじめをしない。
- ひきょうなことをしない。

人の物をとっては
いけません。

人をきず付けてはいけません。

他にもあるかな。
どのようなことがあるかを
考えてみましょう。

ごまかしたり、
うそをついたり
してはいけません。

弱い者いじめをしてはいけません。

ひきょうなことを
してはいけません。



教師



子どもたちの
日々の成長が、
わたしの喜びです。

日本の
「ものづくり」の
ぎじゅつは、
すぐれて
いますよ。



工場
で働く人

野菜の味をよくするように
がんばりました。
ぜひ、食べてください。



農家
の人

みなさんのくらしが、
便利になるように
工夫しています。



き業
で働く人

● 働くことの大切さについて考えてみましょう。

かんごし



かん者さんが元気になる
と、
わたしたちも
元気をもらえます。

人々や町の
安全を守る仕事は、
せきにもあるし、
やりがいも
あります。



消防
士

● あなたがしたい仕事を書いて
みましょう。

4年	3年

いろいろな場所
でいろいろな仕事
をしている人がいます。
人はなぜ働く
のでしょうか。働く
ことの大切さについて
考えてみましょう。

働くことの大切さ

(2) 働くことの大切さを知って

学校や学級でみんなのためにできること

そうじ当番

〈していること〉

●教室を、きれいにほうきでまします。

〈思っていること、がんばっていること〉

★みんなが気持ちよくすごせるように、すみのみなどをていねいにはいています。

●学校や学級でしている仕事を、どのようにやっていますか。

学校や学級での仕事

していること

思っていること、がんばっていること

給食当番

〈していること〉

●おかずをつぎ分けて給食のじゆんびをします。

〈思っていること、がんばっていること〉

★おかずをこぼさないように気を付けています。

早くじゆんびをすませて、みんなで楽しく給食を食べたいと思っています。

先生や友達からの一言

家や地いきでみんなのためにできること

●家や地いきでしている仕事を、どのようにやっていますか。

家での仕事

(せんたくものたたみ、食器ならべ など)

していること

思っていること、がんばっていること

地いきでの仕事

(ボランティア活動、リサイクル活動 など)

していること

思っていること、がんばっていること



家族からの一言

●仕事をしてよかったと思ったことを書いてみましょう。

働くすがたが、かがやいている人たち

様々な分野で活やくする人たちの仕事に対する思いから、働くことについて考えてみましょう。



天野 篤

(一九五五～)

心ぞう外科医

一年間に約五〇〇件も手術をこなし、多くの経験を生かしてむずかしい心ぞうの手術も成功させてきた人です。

心ぞうの手術は、医者が途中で「もうできない」と思ったとたんに、がん者の生命が失われてしまいます。このため手術の前には、何度も手術の様子を思い浮かべて、細かく対応のかくにんをします。こうすると、手術中に何かあっても次の方法が思いうかぶので、落ち着いて行動ができます。ぎりぎりまで自分のできることに全力をつくすことが、がん者さんの命を救うことにつながっています。



小篠 綾子

(一九一三～二〇〇六)

ファッションデザイナー

多くの人が着物を着ていた大正時代に、人々が活動しやすいように洋服づくりの仕事にはげんだ人です。

大正時代はほとんどの女性が着物を着ている時代でした。わたしは、外国から伝わった洋服を見て、「人々の体に合ったすてきな洋服をつくって、着た人が喜ぶ顔を見たい。」という夢をもちました。そのころは、女の人と男の人と同じように仕事を続けるのは大変なことでした。しかしそれでも、わたし

は当時めずらしかかったミシンを買うことができました。それで百貨店の店員やかんごしの制服などを考え、洋服をつくって、少しずつですが仕事をふやしていきました。



井深 大

(一九〇八～一九九七)

技術者、実業家

トランジスタラジオをはじめ、生活をゆたかにする新しい電機製品を開発し、日本けいざいの成長に貢献した人です。

わたしは、電子機器の会社をつくりました。そして、人々の生活がゆたかで便利になるよう、だれもやらないことにちやう戦して、今までにない新しい電機製品を開発してき

ました。わたしは、自分の仕事に生きがいを感じることは、幸福なことだと思います。



(3) 家族みんなで協力し合って

わたしの成長を温かく見守り続けてくれる人……家族

● 次のようなとき、家族はどんなことを思ったのでしょうか。家族に聞いて書きましょう。

わたしが生まれたとき

- ・ 生まれてきてくれてありがとうございます。
- ・ 元気に育ってね。

わたしが小学校に入るとき

- ・ 楽しく学校に通ってね。
- ・ 友達をたくさんつくってね。

わたしをしかるとき

- ・ 最後まであきらめずにがんばる人になってほしい。
- ・ やさしい人になってほしい。

わたしが病気になったとき

- ・ 早くよくなってね。
- ・ 夜もねむれないくらい心配したよ。

大切な家族かぞく

あなたにとって家族とは、どのような人たちですか。
あずささんは、次のようにまとめてみました。



おじいちゃん

こまっっているときは、
いつもいっしょになやん
でくれる。



あずさ



おばあちゃん

元気がないとき、はげ
まして、おうえんしてく
れる。



お父さん

わたしたちのために仕事しごとをがんばってく
れている。いろいろな遊びあそびを教えてください。
お父さんが作ってくれる料理りょうりはおいしいよ。



お母さん

わたしたちのために仕事をがんばっている。
食事しょくじの用意よういやせんたくをしてくれる。しか
られることもあるけど、何でも話せる。



お姉ちゃん

勉強べんきょうや遊びを教えてください。けんかもす
るけど、いっしょに遊ぶあそぶとても楽しい。

●あなたも自分の家族のことをまとめてみましょう。

家族への思い

家族がいつしよにいられること

いつも元気な弟がとつぜん高熱を出しました。何日も続いたある日、祖母と祖母が学校にわたしをむかえにきました。わたしはとても不安になりました。祖母から、弟が入院したこと、わたしと父は祖父の家でくらすことを聞きました。

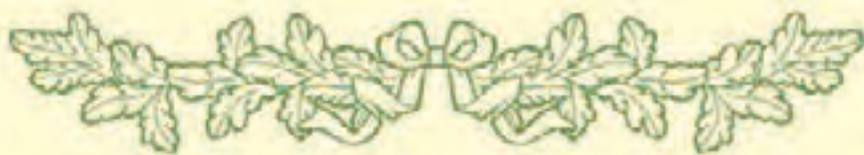
母とは毎日少しでも電話で話しました。さみしかったけれど、弟のためにわたしもがんばろうと思いました。

弟の退院が決まって、父と二人で病院にむかえにいくとき、うれしくて、早く会いたくて、おねがドキドキしました。

病室に着くと、母が「よくがんばったね。ありがとう。」と、ギューッとだっこしてくれました。心の中がやさしい気持ちでいっぱいになりました。

弟とけんかして、母におこられることもあるけれど、家族が元気で、いつしよにいられるということはすごく幸せなことだと感じています。

(小学三年生の作品)



●あなたが家族に伝えたい気持ちを書いてみましょう。

●家族のために、がんばりたいことはどのようなことですか。

4年	3年



ブラッドレーのせい求書	
お使い ^{つか} いちゃん	1ドル
おそうじした代 ^{だい}	2ドル
音楽のけいこに行ったごほうび	1ドル
合計	4ドル



お母さんは、にっこりと笑^{わら}って何も言
いませんでした。
そして、お昼の時間^{ひるまじ}のとき、お母さん
はブラッドレーのお皿の横^{よこ}に、四ドルの

ブラッドレーのせい求書^{きゅうしょ}

ある朝、ブラッドレーが二階^{かい}からおりて朝食
のテーブルについたときのことです。

ポケットから、一まいの紙を出すと、お母^{かあ}さ
んのお皿^{おしら}の横^{よこ}に置^おきました。

お母さんは、それを開^{ひら}きました。

けれども、お母さんは、その紙に書かれてい
ることを本当だと信^{しん}じることができませんでし
た。

ブラッドレーの置いた紙は、次^{つぎ}のようなせい
求書^{きゅうしょ}だったのです。





	お母さんからのせい求書	
	親切にしてあげた代	〇ドル
	病気をしたときのかん病代	〇ドル
	服や、くつや、おもちゃ代	〇ドル
	食事代と部屋代	〇ドル
合計		〇ドル

お金を置きました。

ブラッドレーはそれを見て、自分の取り引きがうまくいったと考えて、喜びました。けれども、そこには、お金とっしょに、一まいの小さなせい求書がありました。それには、次のように書かれていました。



これを読んだブラッドレーの目は、なみだでいっぱいになりました。

そしてお母さんの所へかけて行き、

「お母さん、このお金は返します。そして、お母さんのために、ぼくにも何かさせてください。」と言いました。



共に助け合って生きる

みきたの家には、お父さんとお母さん、そしてベルナがいます。みきたのお父さんとお母さんは、目が不自由でしたが、お母さんのもうどう犬ベルナといっしょに、家族は、いろいろなことを乗りこえて、幸せに暮らしていました。

みきたが、赤ちゃんのころに、あぶない場所に行こうとすると、決まって、ベルナがお母さんの所に行って、鼻の先で足をつついて「お母さん、みきたくんがあぶないよ。」と知らせてくれました。ベルナは、お母さんの生活を助けるパートナーであり、みきたのお姉さんのようなそんざいでした。

ところが、みきたが小学三年生のころのことです。年をとって、白内しょうという視力が落ちてしまう病気になっていたベルナは、とうとうもうどう犬の仕事ができなくなってしまったのです。もうどう犬の仕事ができなくなれば、ベルナは、もう、みきたたちとはいっしょにいられなくなります。

お母さんは、なやみました。ベルナとは、これまでずっとといっしょに、苦しいことやつらいことを乗りこえてきました。お母さんは、ベルナを自分の子どものように思っていました。ベルナの目が見えなくなったからといって、手放すことはできないと思いました。けれども、お母さんにとっては、生活を助ける役わりをしてくれるもうどう犬が必要でした。お父さんもお母さんのことを心配して、ベルナを手放して、別のもうどう犬と生活していこうとすすめました。

ある日の夕食のときです。どうしたらいいのかとずっとなやんでいたお母さんは、とうとう泣き出しました。

みきたは、お母さんの様子を見て、自分がベルナの目になるからと言いました。自分がベルナの目になって、ベルナを助ければ、ずっとみんなでくらしていけると思ったからです。

みきたの言葉を聞いたお母さんの目からは、ますますなみだがこぼれ、声をふるわせて「ありがとう。」と言うのがやっとでした。

もうどう犬

目の不自由な人が行きたい場所へ出かけられるように、安全に歩くための手助けをします。目の不自由な人といっしょに電車やバスに乗り、お店などに入ることもできます。



この話に出てくる「お母さん」は、「郡司ななえ」さんとい

います。
ななえさんは、「盲導犬ベルナのお話の会」を開いて、様々なことを乗りこえながら、もうどう犬と共にくらしてきた経験を多くの人に伝えていきます。

